

シナリオ SSP1-2.6相当				
リスクの観点	認識されたリスク	損失影響度	発生可能性	対処方法
法的リスク	(現在対象となるものはありません)			
技術リスク	・各種新燃料に対する主機関設計が困難	1	1	・現時点ではメタノール、バイオ燃料について良好な感触を得ている ・水素、アンモニア等も検討を進める必要があるが、個社での技術開発はリスクが高く共同体での開発が鍵となる
市場リスク	・カーボンニュートラルの燃料やそのためのインフラが備えられないとき、構造的に燃料を船舶に搭載できないとき、主機関の需要が激減する可能性がある	1	1	・内燃機関以外の推進システムへのシフトを検討するか、新たな事業を展開する必要がある
	・自社のCO ₂ 削減施策が計画通りに実施できなかったとき、市場の評価が低下	4	3	・計画の実効性をよく吟味する
	・サプライチェーン内での他社の取組により、そのコスト回収のため材料価格等が上昇したとき、当社での吸収が困難になる	3	2	・値上げ交渉とともに、社内でのコストダウンに努力する
	・再生エネルギー電力コストの増大による当社収益圧迫	2	4	・生産効率の向上、省エネ設備の導入等
評判リスク	・自動車分野ではEVへのシフトが鮮明であるが、船舶分野の状況も同様と捉えられると、主機関は衰退する技術と見られる可能性がある	2	4	・電池技術等も含めた、船舶関連技術の正しい現状をアピールしていく ・内航船舶業界での統一見解を引き出すような施策を取っていく必要がある

シナリオ SSP5-8.5相当				
リスクの観点	認識されたリスク	損失影響度	発生可能性	対処方法
緊急性の物理リスク	・地球温暖化に起因する、海面上昇、台風の頻発化 / 大型化等による播磨工場及び玉津工場の水害 ・異常気象の激甚化が進み、サプライチェーンの寸断などで生産停止に伴う損失拡大	3	2	・各工場の水害対策を強化する ・内製化を徹底的に進めるとともに、サプライチェーンの冗長化を進める
慢性の物理リスク	・気温上昇に伴う、工場作業環境の悪化	1	4	・コストパフォーマンスに優れた暑熱対策

(注) 損失影響度 1: 存続に関わる重大な損失、2: 長期的に重大な損失、3: 一時的に重大な損失、4: 軽微な損失
 発生可能性 1: 数十年に1度以下、2: 数年に1度、3: 1年に1度、4: 1年に数度又は発生中

< 気候変動に対する機会 >

長年環境経営を実践してきた当社にとって、気候変動は、事業リスクのみならず、自社製品等の提供価値や企業価値を高める機会、すなわちチャンスにつながると確信しております。お客様の脱炭素化を支援する製品を提供し、社会やお客様の課題解決に貢献してまいります。

当社の機会	2022年度財務効果・影響
カーボンニュートラルのグリーンメタノールエンジンの開発及び製造・販売	播磨高度研究棟関連の設備投資55百万円(予算約5億円)
CMR事業の促進(主機関の余剰生産能力を金属加工受注に注力し、脱炭素関連会社の受注が増大)	売上高439百万円(前期比約3倍)